

<学校図書館>

自ら学ぶ子を育てる学校図書館の活用

—社会科における調べ学習を通して—



浦添市立前田小学校
渡 口 学 子

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究の目標	2
III	研究の仮設	2
	1 基本の仮設	
	2 作業仮設	
IV	研究構想図	
V	研究内容	3
	1 子どもが生きる学校図書館	
	(1) 主体的な学習を支える学校図書館	
	(2) 情報・資料を活用して主体的に学ぶ教育計画	
	(3) 情報や資料を活用した学習課程	
	2 意欲づけとなる授業づくり	4
	(1) 自ら学ぶ力を育てる	
	(2) よい教材の条件	
	(3) 学習課題をどう生み出すか	
	(4) 地域教材	
	3 学習効果を高める情報や資料活用の実際	5
	4 図書館調べ学習に役立つガイド	7
VI	研究の実際	9
	1 単元名	
	2 単元について	
	3 単元の目標	
	4 指導計画	
	5 学習課程と指導の工夫	
	6 学習展開の実際	
	7 本時の学習活動	
	8 本時の授業について	
VII	研究の成果と課題	19
	1 成果	
	2 課題	
	おわりに	
	参考・引用文献	
	子どもたちの声	20

「自ら学ぶ子を育てる学校図書館の活用」

～社会科における調べ学習を通して～

浦添市立前田小学校教諭 渡口 学子

本研究は、自ら学ぶ子の育成を目指して学校図書館の学習情報センターとしての機能を活用し、課題解決する学習活動の展開を図るものである。

体験活動やフィードワークを取り入れ、子供たちの興味・関心を高める授業づくりを試みることで「調べたい」「知りたい」という意欲につながることができた。調べ学習の過程においては、課題づくりや情報の収集・整理の仕方、発表の方法を学ばせながら学習を進めることによって、子供たちは、学校図書館を活用して、主体的に自らの課題を解決していくことができた。

【キーワード】 自ら学ぶ子 学校図書館 情報活用能力 学習課程

I テーマ設定の理由

新学習指導要領では、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、興味・関心を持って自ら主体的に学習活動に取り組み、効果的な学習方法を習得して、問題を解決する「自ら学び自ら考える力」の育成をねらいの1つとしている。

自ら学び自ら考える力の育成を図る教育活動の場として、子供の主体的な学習活動や問題解決的、探求的な学習など子供の自立的な学習を支援する学校図書館の果たす役割は重要といえる。

学校図書館には、自由な読書活動や読書指導の場として、さらに想像力や好奇心を呼び起こし豊かな心を育むオアシスとしての読書センター機能と、児童の学習活動を支援する情報力の基地としての学習情報センター機能がある。

学習情報センター機能を活用する調べ学習においては、学習課題をつかむ過程を大切にし、児童が目的意識を持って主体的に調べ学習に取り組むことができるような手立てを講ずる必要を感じる。課題を見つけ、情報を収集して、調べたことをいろいろな形にまとめ、発表するという「学び方」を経験していくことが、その後の自学自習に生きて働き、この積み

重ねが問題解決能力を高め自ら学ぶ子につながると考える。

これまでの指導を振り返ってみると読書センターとしては、学校、学級でいろいろな取り組みが計画的になされているが、学習情報センターとしての活用は、不十分であった。「何を」調べればよいのか、「どのように」調べればよいのかわからずに時間を過ごしている児童や図書を写すだけで終わっている児童、うまく調べても次にどうしたらよいかわからない児童がおり、その都度支援してきたつもりであるが、課題を持って主体的に学習活動できるまでには至らなかった。

浦添市は、平成10年度から「学校図書館情報化・活性化推進モデル地域」の文部省指定を受け、学校図書館にコンピュータやさまざまな情報ソフトを整備するとともに他の図書館とのネットワーク化を図ることによって学習情報センターとしての機能の充実と活性化を進めている。

そこで、子供たちの身近にある地域の文化財や年中行事の調べ学習を通して、より拡充された学習情報センターとしての学校図書館の活用を考えていきたい。

様々な情報を収集・選択し、自分のも

のとして処理して自らが新たな発信源となり情報を提供していくことにより、問題解決能力を高め自ら学ぶ子が育っていくと考え本テーマを設定した。

II 研究の目標

社会科の調べ学習を通して課題を見つけ、情報を収集・選択してまとめ、発表する「学び方」の指導を工夫することにより、児童の問題解決能力を高め自ら学ぶ子を育成する。

III 研究の仮説

1 基本の仮説

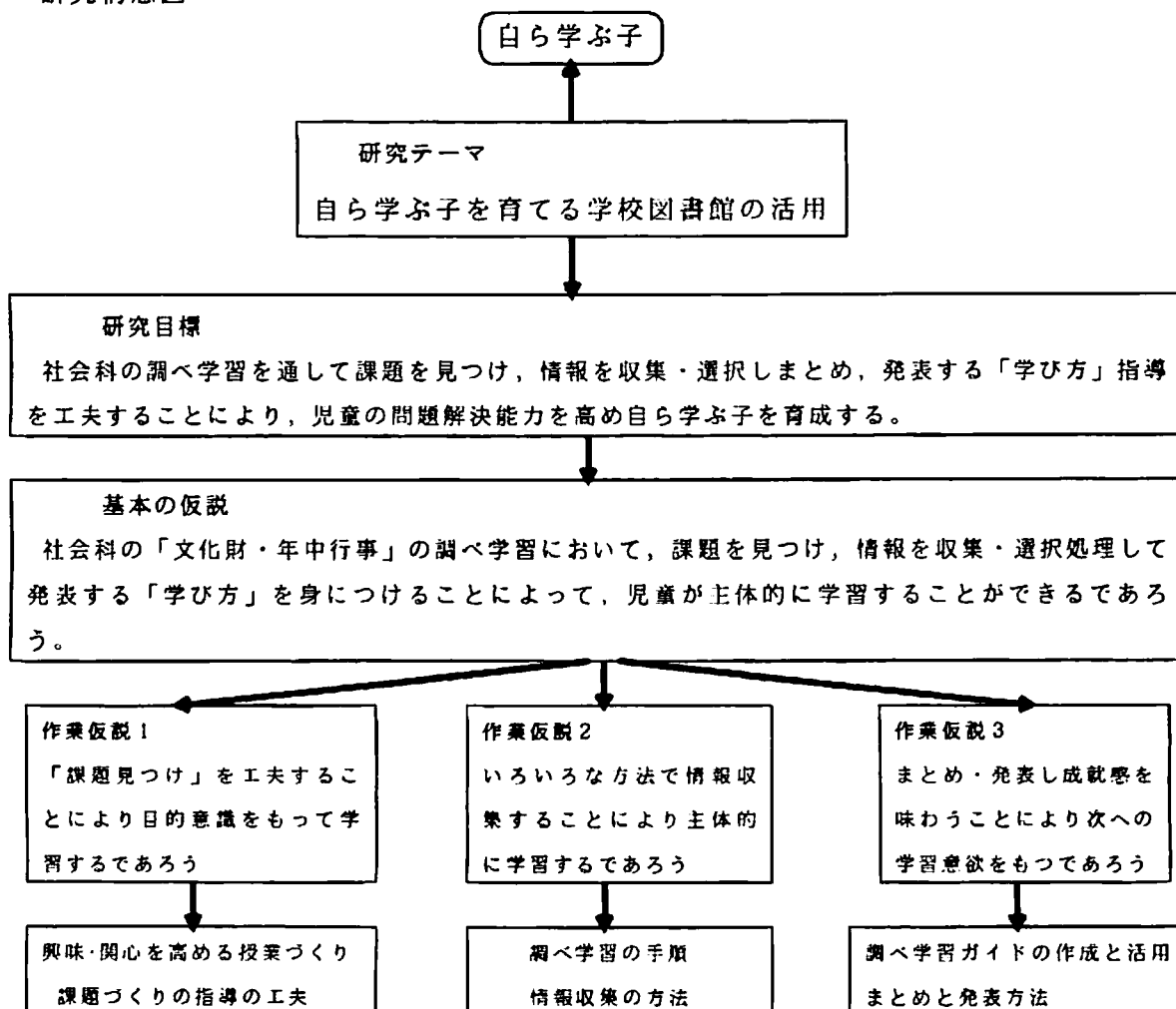
社会科の「文化財・年中行事」の調べ学習において、課題を見つけ情報を収集し、選択処理して発表する「学び方」を

身に付けることによって、児童が主体的に学習することができるであろう。

2 作業仮説

- (1) フィードワークや資料を活用して「課題見つけ」を工夫することにより、児童が目的意識をもって学習することができるであろう。
- (2) 図書やインターネットやパンフレットやインタビューなどいろいろな情報収集手段がわかり様々な情報を収集することにより、主体的に学習することができるであろう。
- (3) 調べて分かったことをまとめ、発表することにより、成就感を味わうことができ、次の学習への意欲につながるであろう。

IV 研究構想図



V 研究内容

1 子供が生きる学校図書館

(1) 主体的な学習を支える学校図書館

学校図書館は、子どもが自ら課題をもち、それに主体的にかかわる時、その力を発揮する。学校図書館は、子ども一人ひとりが課題をもち、自分のやり方で、自分のペースで自学・自習する場であり、問題解決能力を培う場である。また、読書を通して、豊かな人間性を涵養する場である。

新しい教育課程は、生きる力の育成を教育の中核的な目標とし自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成を重視している。学校図書館は、学習情報センター・読書センターとして、教科・領域の学習展開に寄与し、主体的に学習する場としての機能を発揮してきたが、一層学習効果を高めるために大切な役割を果たすことになる。そのためには、問題解決能力の一つとして情報や資料を収集・選択・活用して、自分の学習や生活に役立てる力「情報活用能力」の育成と、積極的に情報や資料を活用する学習過程の工夫が必要である。

(2) 情報活用能力育てる教育計画

① 授業創り

- ・情報や資料を主体的に活用して、課題を解決する学び方と、情報や資料を活用する能力を養う指導計画と学習過程を考える。
- ・興味・関心・意欲を大切に学習活動を展開し、学ぶことに喜びが見いだせるように学習形態や学習時間を工夫する。
- ・発達段階や個に応じて情報機器が手段として利用できるよう支援する。

・情報や資料を交換し合う中で互いに認め合い高め合って学習効果をあげ、学習活動と一体化した評価を行う。

- ・情報や資料を活用するための基本的な力の定着を図るとともに、情報や資料の充実と活用しやすい環境づくりをする。
- ・学年・学級・教科などの枠をはずした、効果的な単元の工夫や総合的な学習を考える。

② 学習や生活に生きて働く読書活動

- ・学習活動を支える豊かな人間性の育成を意図して、「読書の習慣形成」「豊かな心情形成」をねらいとした指導計画を作成し読書活動の充実を図る。
- ・進んで読書をすることにより、読む力や表現する力がつき、学習に効果的に働く力とする。

③ 楽しく学び合う環境づくり

- ・ワークスペースを利用して、学び合う場・交流する場を作り、いつでも誰でも情報や資料が活用できるようにする。
- ・図書館とコンピュータ室や教具室が効率よく利用できるように工夫し、そこに、必要な学習材を準備し学習意欲を支える場とする。
- ・学習活動に役立つ図書以外の資料・子どもの作った資料・情報機器などを置き、学習時間外でも利用できるように開放しておく。

④ 家庭や地域の人と一緒に学ぶ

- ・図書館の情報や資料を活用した授業公開をし、PRと協力要請をして日常の学習効果をあげる。
- ・公共図書館や近隣の学校との連携を密にして情報や資料を交換し合い、学習を効果的・効率的に進める。
- ・地域施設の積極的な利用や行事への参加など、日頃から人とのふれあいを大切にして情報を得やすい環境をつくっておく。

(3) 情報や資料を活用した学習課程

主体的に情報や資料を活用する学習活動は、その学習課程において情報・資料の活用能力と学習の仕方が身につくとき、この学力がさらに主体的・創造的な学習を生み出していく。子どもはこ

の学習課程でどのようにして情報や資料を得、どのように活用して自分の学習を創りあげ、成就感を味わって次の学習への意欲とするかを体験するのである。

学習過程	テーマ設定 課題づくり	情報・資料の活用	課題の把握 学習計画	・テーマを設定し課題づくりをして明確な目的意識を持って学習の見通しと学習計画を立てる。
	調べる		収集・選択	・課題の解決や目標の達成に適した情報や資料を集めその中から必要な物を選択する。
	まとめ		加工・整理 表現 伝達	・複数の資料を表現方法を工夫して組み合わせたり作り変えたりして理解を深める。 ・適切な方法を用いてわかりやすく伝えあう情報を交換し合いさらに多くのことを学ぶ
	発表		評価・再生	・新たな情報を得て自分の情報や資料を修正再構築する。より価値の高い者にして、これからの学習や生活に生かす。

2 意欲づけとなる授業づくり

(1) 自ら学ぶ力を育てる

自学・自習は、問題意識から学習課題を自らに課し、追求することであり学習の出発は、問題意識をもち自分で課題を設定することである。問題意識を育てるには、課題解決の学習課程の初期のステップに問題意識を醸成するための「意欲づけ」の時間を位置づけるとよい。自分の追求する「課題」を自分の「思い」や「願い」と結びつけて内面化させようというものである。自分で問題を見つけ、目標や課題を設定し、問題を解決する力を高めるには、「意欲づけ」で問題意識を廻り起こし、自らが目標や課題を設定し、追求するような学習の積みあげが必要である。

(2) よい教材の条件

何かを見たとき「はてな？ふしぎ」を発見できるかどうか。この問題意識が学習の出発になり、追求の深化につながる。教材は、子どもたちが「はてな？ふしぎ」を発見しやすく、しかも、深く追求できるものがよいことになる。

- ① 子どもにとって興味・関心があるもの
- ② 子どもに力がつくもの
 - ・みえないもの（わからないこと）がみえるようになる（わかる）
 - ・学習課程で「不思議発見力」「調べる力」「表現力」といった基礎的な学習技能が体得できる。

・学習意欲が出てきたり高まったりする。

(3) 学習課題をどう生み出すか

① 概念（観念）と事実との矛盾を取り上げる

近年の認知心理学的・教育学的研究によれば、小学生段階でも事象についての様々な素朴概念をもっていることが明らかになってきた。課題や問題を生み出す基本方略として、事象についての概念と事実の知的な矛盾や葛藤を明確にすることが最も効果的であるとされている。

① 調査，試行，操作，製作など，対象とかかわる間に問題を見いだす

一般にフィールドワークと呼ばれている活動は、この代表的な事例で、特定の対象に注目することが肝心である。実のなる植物、学校で観察できる鳥など注意してみれば、調べる対象は無限に生まれてくる。

また、対象とかかわって操作や試行を繰り返しているうちに、調べたいことや知りたいこと、作りたいものなどが生まれてくる。操作や製作など対象にかかわる活動を進めているうちに、課題や問題が生まれるケースは数多く見られる。

(4) 地域教材

地域教材は、身近にあり親しみがあるだけでなく、地域の社会的事象に直接かかわり、触れ合いながら学習を進めることができる。

地域の施設の見学・調査や利用、地域の人々からの聞き取りなどの活動を積極的に取り入れることによって、子ども一人一人が問題意識をもち、主体的に学習できるようになる。

そしてこのような学習を通して、地域社会に対する理解を深め、地域社会

の一員としての自覚と誇りや愛情をもつようになるのである。

3 学習効果を高める情報や資料活用の指導

(1) 学習との出会い

「ふしぎだな」「おもしろそうだな」

調べたい、知りたい気分にさせる導入時の意欲づけが大切である。興味・関心が引き出せるように効果的な情報や資料の提示をする。教科書・本・写真・絵・実物・自作資料などが考えられるが、読みきかせ・ブックトーク・朗読も効果的である。最初は身近に感じ、意欲が持続しやすく親しみやすいものを選ぶとよい。また、子供たちの実態に合わせていろいろな体験活動を取り入れることによって、子供たちの好奇心を刺激し、興味を喚起していくことができる。

(2) 課題づくり

「もっと知りたい」「自分で調べたい」

① 自由研究や総合的な学習の時間においては、課題づくりにウェーピングが用いられることがある。ある事象（テーマ）についてイメージを広げていくことにより、追求したい自らの課題にたどりついていくというものである。

② 例示された簡単な課題サンプルを元に課題づくりを学習しながら自分の課題がつかれるようにしていく。そして自分のテーマについて子供たち同士で白らが設定した課題を提示し合い、課題を見直す作業の中で、学ぶ価値のある課題（有用性）になりうるかを確かめる場面を設ける。

(3) 学習計画を立てる

「解決の方法は」「時間はどのくらい」

「資料は何を使おうか」

自分の課題を解決するために、どこ

で、何で、どのようにして学習したらよいか見通しをもつ。計画は学年や内容に応じて、学級全体、グループ、個人で立てる。必要な情報や資料の探し方・調べ方・まとめ方・発信方法なども計画に入れておく。

(4) 必要な情報や資料を集めて選ぶ

「図書館にはいろいろな本があるね」

「この本はどうかね」「こんな本見つけたよ」

日頃から学校図書館の利用に慣れていると、必要な情報や資料が手早く探せる。探せない子どもには手助けをしたり、他にも新聞、パンフレットのような身近な資料やインターネットやCD-ROMなどの情報源があることを知らせる。集めた中からどれが必要であるか、役に立つのかを選択するのが学習のポイントになるので、判断力と同時に決断力が必要になる。集めることは容易にでき unnecessary なものを捨てることがなかなかできない意欲を持続させるためには情報や資料を十分に用意し、複本や比較検討できる異種類の本も備えておく。

(5) 情報や資料を利用して調べ、まとめる

「知りたいことを調べよう」「少し分かってきた」「どうまとめようかな」

「分かりやすく書こう」

目次や索引を使った探し方、メモの取り方、読み取る力や書く力などは、調べる学習の基本であり、日頃から指導しておきたい。資料は自分の言葉に直してから本で分かったこと、自分の意見・感想などを区別して書く。分からない言葉や文章は、辞書や事典を使って調べる。低学年ではワークシート、ふき出し、調べカードなどを使って簡単にまとめてもよいが、高学年では、調べる目的と内容が一致するようにまとめ、図書以外から得

た情報も加えると効果的である。表・図・グラフで表したり絵・写真を入れたりして整理をし、絵本・紙芝居・ペープサート・新聞・シナリオづくりなど、まとめ方を工夫する。その際、図書館には参考になる本がたくさんあるので、教室に借り出しておくといよい。

(6) 表現を工夫して分かりやすく伝える

「友達や先生に調べたことを伝えたい」

「どのようにしたら分かりやすく話せるかな」

情報を交換し合いさらにより資料を作りあげる場でもあるので、聞く・話すの基本と、発信する喜びが味わえるよう支援する。表現手段としてビデオ・OHP・OHCを使うのも効果的である。

(7) 評価し合い自信をつける

「教えてもらってよくなった」「ほめてもらって嬉しい」「やってよかった」

自己評価、相互評価、教師の評価など発達段階や学習内容によって評価方法を考えるが、○△のチェック方式や短文形式など簡単で分かりやすい方法とする。情報や資料の効果的な活用を、内容と態度的なものに分けて評価し、今後の意欲につながるようにほめて励ます評価をしたい。

(8) これからの学習や生活に生かす

「ほかの学習にも利用しよう」「大切にとっておきたい」「新しいことに挑戦しよう」

情報や資料を活用して学習したよさを再確認し、今後への生かし方や保存方法を考える。できあがった資料や実物は、図書館やワークスペースなどに置いて大勢の人に見てもらったり活用してもらったりする。ホームページを開いて見てもらったり意見交換して学習を深めたりする。

VI 研究の実際

1 単元名 市の人たちのくらしの うつりかわり

2 単元について

(1) 教材観

昔の物事を調べることは、現在に至るまでを知るだけでなく、これから先どのような方向に進んだらよいかという判断もできるようになる。人々のくらしの変化や地域の変化を調べ、それを現在や未来に生かすことこそ、本単元のねらいである。

昔の道具や生活、地域の文化財や年中行事を調べることによって、「くらし」の裏側には、常に人々の願いがあることを明確にし、それが変化の原動力となっていることをつかませたい。琉球王朝の歴史的文化が多く残る浦添市の特色に気づかせ、地域社会に対する理解を深め、地域社会の一員としての自覚と誇りや愛情を育てていきたい。

昔の道具を使う体験や家族・地域の人からの聞き取り調査、郷土資料館の見学などの多様な学習活動を取り入れることにより、意欲的に学習するとともに興味・関心の高まりが期待できると考える。また、地域の変化・特色をとらえさせるには、遺跡、建物、文化財、祭りなどに目を向けさせ図書館の調べ学習などを通して歴史的事実を追っていく。さらに、図書館での調べ学習では、学習過程において課題づくりや情報収集、まとめ・発表の指導の工夫をすることにより「学び方」の基本を身につけさせたい。

(2) 児童観

昔の物事については、家庭や地域でお年寄りとおふれあう中で話を聞いて

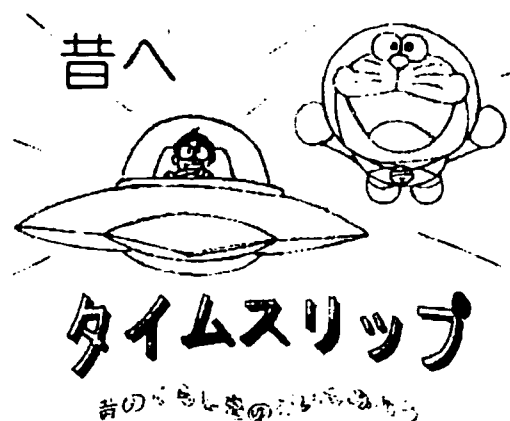
ている子もいる。遺跡・建物・文化財については、「浦添城跡」や「浦添ようどれ」「けいびん鉄道跡」などを知っている子が数名いるだけで少なかった。しかし、前田棒や前田の綱引きなどの地域の祭りは、ほとんどの子が知っていて参加したことがある子も多い。

社会科では、これまでに公民館や工場を見学したり、校区探検やお店調べをしたりして校外での活動を取り入れた具体的、体験的学習が多く、子どもたちは喜んで取り組んできた。そして意欲的に、学習したことを新聞やペープサートにまとめ、発表していた。しかし、相手の発表に対して疑問や意見を持ったり自分の考えに生かしたりするまで発展していない。

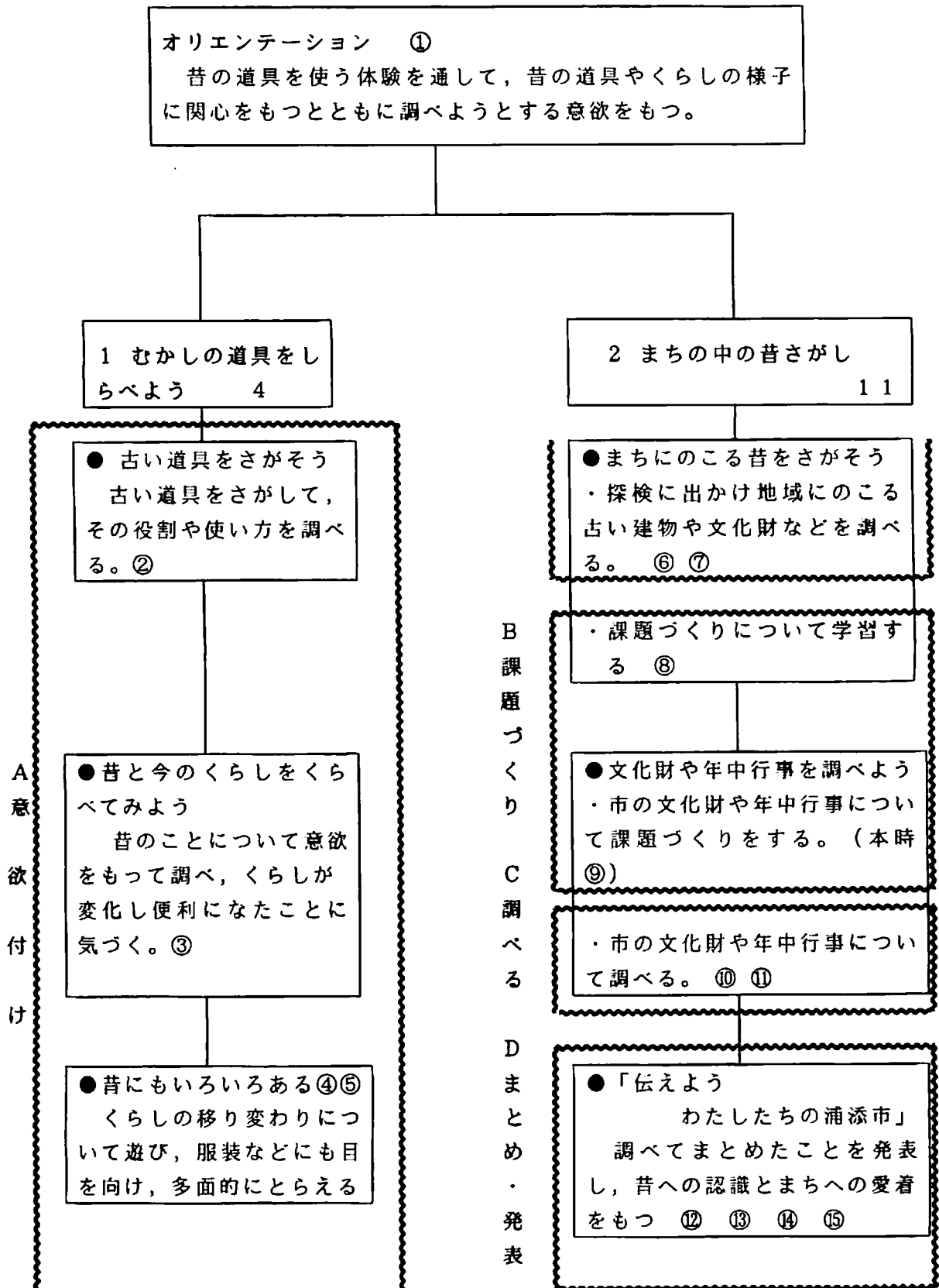
図書館での調べ学習は、自分の課題解決に向けて目的意識をもって取り組んではいたが学習計画にもとずいた見通しをもった主体的な活動とはいえなかった。

3 単元目標

今も残る昔の道具や地域の文化財・年中行事について関心を持ち、市の人たちのくらしの移り変わりについて調べる楽しさを味わい、地域の人々の願いについて考える。



4 指導計画



5 学習課程と指導の工夫

- 意欲付け** . . . 興味・関心を高めるために体験活動やフィールドワークを取り入れた授業づくりをする。



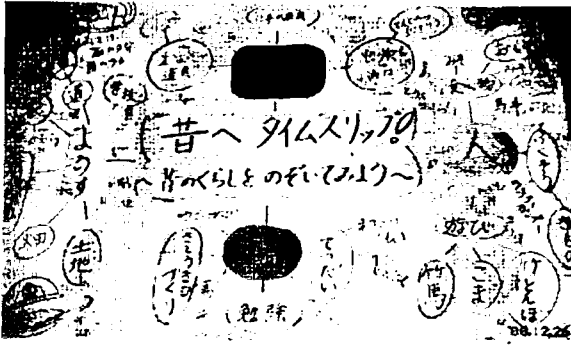
昔の道具を観察したり使ったりする，文化財の見学，棒術やエイサーの体験，組おどりの鑑賞
- 課題づくり** . . . 文化財マップや市が発行しているパンフレットから興味の対象をしぼりテーマを設定させる。

テーマカードを活用しどんなことを調べるか具体化させる。

個人で課題づくりをしてから共通のテーマをもった者同士でそれぞれの課題について練り合い，学習が可能な課題を決定させる。
- 調べる** . . . 調べ学習ガイドを活用し学習計画から情報の収集，選択・整理までの学習の進め方を学習する。

情報収集の方法は，図書以外にインターネットやパンフレット，資料を活用させる。
- まとめと発表** . . . 新聞（大・小），ハープサート，紙芝居，絵本などのこれまでのまとめ方にコンピュータ（スタディーノート）も加え，発表を工夫させる。

6 学習展開の実際

時	学 習 活 動 と 児 童 の 反 応
①	<p>●オリエンテーション</p> <p>「昔へタイムスリップ」一昔のくらしをのぞいてみようー</p> <p>○絵や写真を見たり実際に昔の道具に触れたりしながら，気づいたことを自由に話し合い，「昔のくらし」について考える。</p> <p>○昔へタイムスリップして「昔のくらし」をのぞいてみるという想定でウェブページすることにより学習の視点をつかむ。</p> <p>・ねらいにそった学習計画を立てさせる。（学習チャートの作成）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

A

意欲付け

② 古い道具をさがそう

○学校や地域、家にある昔の道具を観察したり使ったりしながら、感想を話し合う
・市の文化係から道具を借用し道具の種類を増やすようにする。



かつおぶしけずり
・かつおぶしのおいがした
・昔の人のアイデアはすごい
・など思いました。
・はたしもついでておもしろいなと思いました。

●昔と今のくらしをくらべてみよう

○昔の道具が使われていた頃のくらしの様子を、家の人やお年寄りに聞いて調べ発表する。

③

・学習チャートを活用して聞き取り調べの視点を示す。

④

○聞き取り調査の他にCD-ROMで昔の様子を学習して絵年表にまとめる。

⑤

・道具の移り変わりとともにくらしの様子も変化し便利になってきたことに気づかせる。

おうちの人に聞いてみよう
(人 じこと よくちを せしむ)



おばあちゃん

家の様子

・おばあちゃんの家は2階建ての家のなか
・お風呂が2階にあるのは下が土の間です。
・お風呂の扉は家の外にありました。
・お風呂の扉は家の外にありました。

・お風呂の扉は家の外にありました。

人の様子(子ども)

・お風呂はガラスとスカーフではき物はケツをした。
・ガラスのいすはなごおとまの道で馬車とあてはま。

石うす(豆すりこぎ)



石うす

今から35年くらい前に、私のおばあさんが豆を石うすという字ですりつぶして豆かきを作っていました。

石うすは2つの石を重ねたもので、上の石には3が入る大きさの穴があります。その穴に、豆を入すりつぶすと石と石の間から出てきてそれを豆かきにしたそうです。



「火ばちに木炭を入れてあたたまった。残り火の木炭でアイロンした。今は、電気があって便利。」「川に洗たくにいった、すごいな」「牛や馬、やぎやぶたを飼っていて畑仕事に使ったりおいおいに食べたりして動物は大切だったんだな。」

●まちにのこる昔をさがそう

- ・学習チャートをもとに、現在のまちの中にも昔の町の様子を知る手がかりがあることに気づかせる。
- ・まちにのこる昔のもので、子供たちが知っているものを発表させフィールドワークへの意欲を高める。

⑥ ○「まちなむかしさがし」の探検に出かける。

⑦ ○地域に残る無形文化財についてもビデオを視聴したり、地域の方からの話を聞いたりする。

- ・地域の方の話を聞いて昔の人々のくらしの向上願う工夫や知恵に気づかせる。



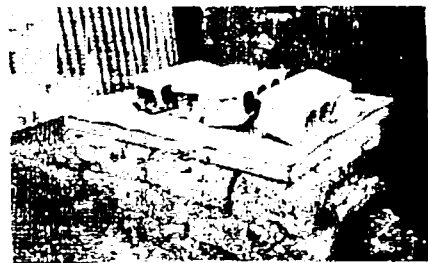
前田グンジン（権現）



地域の御嶽（うたき）

私は前田グンジンにまつわる話は本当にあつたのかなと信じられませんでした。

あの石はまだあそこにあるのかな。あ、そろそろ見てみたいね



私は前田をたんけんして、前田には「いど」がたくさんあるなと思いました。それに前田の人はネ申様を大切にしているなあと、思いました。

B

課題づくり

⑧

○ テーマ「井戸」についての疑問例を読む。

- ・いつできたか
- ・たれがつくったか
- ・どうしてつくったか
- ・今はどうなっているのか

子どもたちが作った課題と予想

- ・セメントと石の井戸があるのはなぜか。（セメントの井戸は新しい）
- ・丸い形と四角があるのはなぜか。（四角い石を積んだから）

○地域行事の一つである「八月遊び・組おどり」のビデオを見る。

○テーマカードに課題と予想を書く。

八月あしび



日時：平成12年11月11日土 PM6:30
場所：浅草寺前田公園
主催：浅草寺・浅草文化センター



「昔っていつ？」 「たれが何のためにやったのかな」
 「どうして八月あしびっていうのかな」
 「62年ぶりに復活したのはどうしてだろう。」
 「伏山敵討ち以外組おどりもあるのかな。」

本
時

●文化財や年中行事を調べよう

- ⑨ ○文化財や祭りや伝統行事，昔話や伝説について資料をもとにテーマを決め，課題づくりをする。（検証授業）

C

調べる

- ⑩ ○調べ学習の手順がわかり，調べ学習の計画を立てる。
 ⑪ ・「調べ学習ガイド」で学習の手順を知らせながら進める。
 ○インターネットの活用の仕方がわかり，いろいろな資料をリストアップする。
 ・調べ学習ガイドを活用させる。
 ○図書やインターネットやパンフレットなどから情報を収集する。
 ○情報カードや整理カードに情報をまとめる。



整理カード

テーマ	英祖王について
なぜ王様に	天玉のまごき本玉が王位に
なれたのか	かた時悪い病気が発して沖 の人口の半分が死んで本玉 は私にかなしいことと思 て英祖を王にしようと はことわらぶ本玉は、そ れを助けたのでしかたなく 英祖は王になた。その時英祖 は32才でした。
なぜ有名に	英祖の母がるところに太陽が 入るゆめを見て生まれたのが 英祖で英祖の事を「た いていた」とたことは、 よくい。意味は「後の」の 王をさしそんとしてい

D

まとめ 発表

⑫

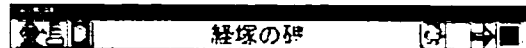
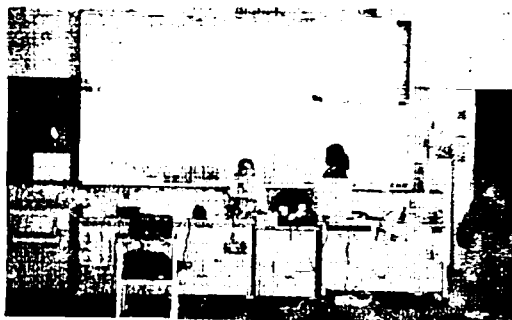
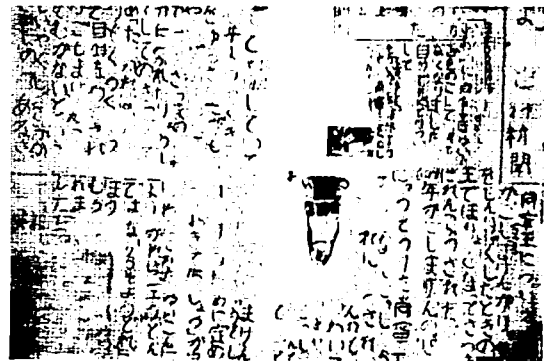
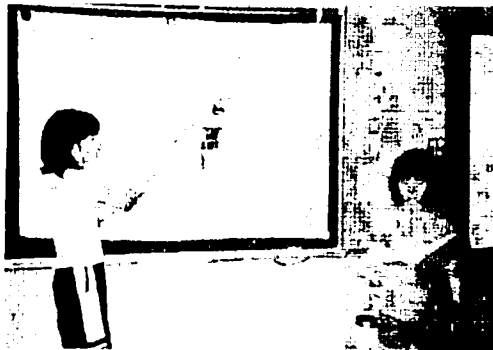
⑬ ●「伝えよう わたしたちの浦添市」

○調べたことをまとめて発表の準備をする。

⑭

○発表会をする。

- ・絵本を作る
- ・紙芝居を作る
- ・ペープサートを作る
- ・新聞を作る
- ・コンピュータ（スタディノート）に書く



経塚の碑

①ようかいはどこらへんにでたか

畜舎から湧きつなかる運の丘によいかでた。そこらへんは本かたさんあって、四喜が出そうだった。



②こんごう経とは何なのか

ようかいをよせつけないお経でした。

⑮

○発表を聞いてわかったことや感想をまとめる。

○調べ学習をふり返る。

7 本時の学習

社会科学学習指導案

平成12年12月14日 2校時

前田小学校3年2組男17名 女17名計34名

授業者 渡 口 学 子

(1) 単元名 まちの中の昔さがし

(2) 本時の目標

市に残る文化財や祭りや伝統行事の中から調べたいものを見つけどんなことについて調べるか課題づくりをする。

(3) 授業仮説

調べたいことについて考え、話し合うことによって、自分の課題がより明確になるであろう。

(4) 準備 プリント(テーマカード) パンフレット

(5) 本時の展開

	学 習 活 動	教 師 の 支 援	評 価
導 入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてをつかむ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> テーマについてどんなことを調べるか課題を見つけよう </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたい文化財や年中行事について確認し、本時のめあてを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてをつかむことができたか
展 開	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習をふり返る ・テーマについてどんなことを調べたいか考える。 ・同じテーマについて調べる者どうしてグループになり、課題について練り合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に使用したプリントで課題づくりについておさらいをする ・課題づくりできない子の支援をする。 ・グループを作らせる。 ・話し合いのもち方について指導する。 (ア)同じ課題はどれかな (イ)テーマに関係あるかな (ウ)この課題についてこう考えます 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題づくりができたか。 ・自分の考えを話すことができたか。 ・グループで話し合
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで出し合った課題を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時の予告をする 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合うことによって自分の課題が明確になったか。

(6) 評価

自分のテーマについて調べたい課題をつくることができたか。

Ⅶ 研究の成果と課題

1 成果

○作業仮説1について

体験活動やフィールドワークを取り入れた授業を展開することにより、子どもたちは、学習内容に対する興味・関心を深め学習意欲を高めていった。

課題のサンプルを提示したり、グループで課題の練り合いの場を設けることにより、自らの課題づくりができ、目的意識をもって学習できた。

○作業仮説2について

調べ学習の進め方を示した「調べ学習ガイド」を活用することにより、学習計画、資料のリストアップ、情報収集整理など、学習課程において主体的に学習できた。

図書やパンフレット、資料、インターネット、インタビューなどいろいろな情報収集の支援をすることによって、様々な情報を収集し積極的に学習できた。

○作業仮説3について

新聞や絵本、コンピュータにまとめ発表することにより、成就感を味わい次への学習意欲へつなぐことができた。

○インターネット情報は、「ひらがなナビィ」というソフトでふりがなをつけたりお気に入り登録することで子どもたちにとって手軽に活用できるものになった。

○発表を通して、互いの学習を共有することができた。また、初めてみるコンピュータでの発表に興味を示していた。

○調べる、まとめ、発表する場として図書室とコンピュータ室を利用し、必要に応じて司書やコンピュータ主

任とTTを組むことにより、有効な支援ができた。

○自分たちの住んでいる地域や市についていろいろなことがわかり、学習するとともに地域や市のことについて関心を深めていた。

2 課題

○この学習経験を生かし、学習を積み重ねることにより、調べ学習の学習課程がわかり見通しをもった学習ができるようにする。

○2グループのスタディノートによる発表に他の子も興味を示していたのでコンピュータによるまとめ・発表の指導について研修する

○今後も学習意欲を高める教材開発と子どもの課題解決に活用できる情報の研究が必要である。

【おわりに】

学校図書館の活用においては、本研究の成果を生かし、より効果的な活用を実践していきたいと思っております。ここで研究した経験は、研究の仕方を勉強するいい機会になりました。また、いまあじの先生方や子どもたちとの出会いやいろいろな研修の一つ一つが、貴重なものでした。

研究所の新城英将所長、新川純子係長と古田思信主事には、たくさんのご指導、ご助言を頂くと共にいろいろな面で支えていただき感謝申し上げます。研究所職員の皆様にも大変お世話になりました。

また、教科指導員の前田小の三田井裕先生には、忙しい中ご助言いただき有り難うございました。さらに、研修の機会を与えて下さった浦添市教育委員会の先生方、前田小学校の大城校長先生、本研究に協力頂いた3年生の先生方お礼申し上げます。

